

抗微生物薬の適正使用を支援するデータベースの開発

○雨宮理¹、大野逸子¹、杉平直子¹、尾関理恵²、小茂田昌代²

¹メディカルデータベース株式会社、²東京理科大学薬学部 医療安全学研究室

【目的】

2017年6月に「抗微生物薬適正使用の手引き 第一版」が発出され、抗微生物薬の適正使用の必要性が強調されてきている。そこで、抗微生物薬の適正使用に寄与するため、感染症(疾患)の標準的な治療法や薬剤特性に基づいた、最適な抗微生物薬選択を支援するデータベースを開発した。

【方法】

抗微生物薬の特徴をまとめた”薬剤特性データ”と、各疾患の標準的な薬物治療の情報をまとめた”治療法データ”の2つのデータ群で構成した。薬剤特性データは、抗菌薬・抗真菌薬・抗結核薬・抗ウイルス薬の内用薬・注射薬 1300品目(220成分)を対象とした。抗微生物薬の選択や治療管理において必要となる情報を検討し、データ項目を設定した。治療法データは、主要な感染症 67疾患(呼吸器感染症、中耳炎・副鼻腔炎、尿路感染症等)を選択して、各疾患のエンピリック治療(経験的治療)、ターゲット治療(標的治療)の情報についてデータベース化を試みた。

【結果】

抗微生物薬の適正使用において、以下の支援が可能なデータベースを構築した。

- 1) 抗微生物薬の薬剤特性(基本情報、薬物動態、組織移行性、適応菌種、TDM)の参照
- 2) 薬剤特性比較による最適な薬剤の選択
- 3) 各疾患における標準的な治療薬剤と推奨投与法の参照
- 4) 疾患ごとに想定される原因微生物の参照とその微生物に適応をもつ薬剤の抽出

【考察】

感染症治療に関するガイドラインや診療指針が数多く策定されている。抗微生物薬の適正使用には、これらの情報にある標準的な治療法を基準として、各医療機関の採用品目やアンチバイオグラム、また、患者の重症度や基礎疾患、年齢や臓器障害に応じて最適な治療法を判断する必要がある。今回構築したデータベースは、その活用により標準的な治療法を簡便に参照することが可能であり、また、必要な薬剤特性情報を抽出・比較することができるため、患者にとってより適した抗微生物薬を選択する一助となるものと考えられる。